

【宮城県中新田高等学校】（仮称）未来創造科（地域社会学科）（令和9年度設置）

未来創造科設置の目的

中新田高校では、「100年つづくまち創り」を目標とした探究的な学びをとおして、地域への思いと、地域活性化の熱意をもった人材を、地域と共に創ります。

- 育成する力
- ・自ら見つけ、探究し、発信する力
 - ・自ら活動し、主体的に取り組む力
 - ・自ら考え、判断し、行動する力

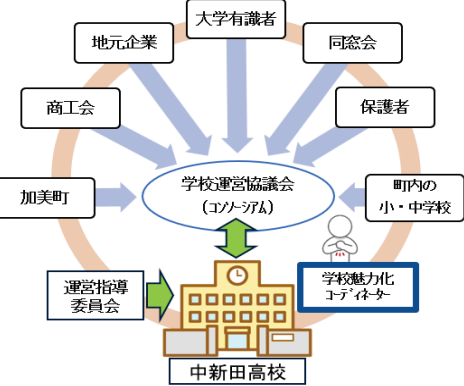


学校の特色化・魅力化を図る学校設定教科「地域創造学」

加美町の地域課題や魅力を探究し、発信する学校設定教科として6科目を開設

- 1年生 総合的な探究の時間「加美町探究」
- 2年生 地域産業Ⅰ 地域スポーツ学Ⅰ 地域防災学Ⅰ
- 3年生 地域産業Ⅱ 地域スポーツ学Ⅱ 地域防災学Ⅱ

関係機関との連携・協働体制の構築方法



- 学校運営協議会が、新しい普通科を支援するコンソーシアムを兼ね、教育活動へ助言と、「地域創造学」の実践に参画する。
- 学校魅力化コーディネーターが関係機関をつないで連携・協働体制を構築し、「地域創造学」や「総合的な探究の時間」における探究活動をコーディネートする。

令和7年度の目標及び取組状況

- ・令和9年度入学生の教育課程の検討
 - ⇒校長直轄の「中高将来構想会議」を中心に新しい教育課程を検討
- ・学校設定教科「地域創造学」の検証と学習内容のブラッシュアップ
 - ※加美町と連携した探究活動の推進・実践や「総合的な探究の時間」と学校設定教科「地域創造学」との学びの往還を含む。
 - ⇒学校魅力化コーディネーターや関係機関と協働して探究活動を展開
探究活動の成果を発信
- ・全職員対象の校内研修会（ワークショップ型）の実施による



成果と課題

- 【成果】・生徒の非認知能力の向上
 - ⇒「AiGROW」（株式会社IGSが開発した非認知能力を定量化するツール）を活用して生徒の非認知能力とその成長を評価。疑う力、論理的思考、影響力の行使など13の指標において能力の向上が見られた。
 - ・地域関係機関との連携強化が進む。
 - ・中新田高校の取組の地域内外からの認知度アップ。
- 【課題】・学校魅力化コーディネーターの人材確保と育成
 - ・令和9年度の（仮称）未来創造科設置に向けた中学生への周知
 - ・全国募集生徒の入学希望者数の増加

【日星高等学校】地域を軸に探究し、未来を創造する！『地域社会学科』（令和8年度設置）

主体性

協働性

探究性

社会性

- ・失敗を恐れず最善をつくり、失敗から学ぶ力
- ・自分の興味関心から「問い」を立て、自ら課題解決に向かう力
- ・自分や他者との対話を通して、新しい価値を創造する力

新しい教育への挑戦・魅力ある教育の概要

- ① 学びを地域社会とつなぐ ⇒ 自己有用感の向上
- ② 学びを多世代とつなぐ ⇒ 地域財産・文化の継承
- ③ 学びを他教科とつなぐ ⇒ 教科を横断し多角的な視点
- ④ ICTで学びをイノベーションする ⇒ DXの推進

令和7年度の目標

「地域未来学Ⅰ」
カリキュラム開発

探究を軸とした
教科横断型教育課程
の開発

研究活動の公開

取組状況

2年生選択科目として実施
図書館・公民館などを利用し多世代
をつなぐプロジェクトが展開。その
経験を生徒の自己有用感やウェル
ビーイングの実感につなげることが
課題である。

探究を軸とした教科横断型教育課程
の整備は進んだ一方で、学校全体へ
の定着には課題が残る。

教育活動の外部への公開は進んだ一
方で、継続的かつ戦略的な発信体制
の構築が課題である

持続可能なまちと社会の担い手を育てる



運営指導委員

福知山公立大学
龍谷大学
立命館大学
一般社団法人KOKIN
舞鶴市
地元ベンチャー企業

日星高校

コンソーシアム

舞鶴商工会議所
舞鶴市教育委員会
京都府立大学
京都府北部地域連携都市圏振興社
KATA .Lab
みんなあの居場所 彦一郎
地元企業

成果と課題

【成果】

- ・大学生や生成AIの伴走により、探究支援体制を充実
- ・地域に出て多世代と関わる学びを通して、生徒が実社会とつながる機会の拡充
- ・3年間を見通した探究カリキュラムと評価方法の確立

【課題】

- ・生徒の成長実感につながる地域での学びの充実
- ・生徒の成長実感につながる地域での学びの充実
- ・探究的な教科の学びの学校全体への定着

【大阪府立狭山高等学校】文理探究科（令和8年度設置）

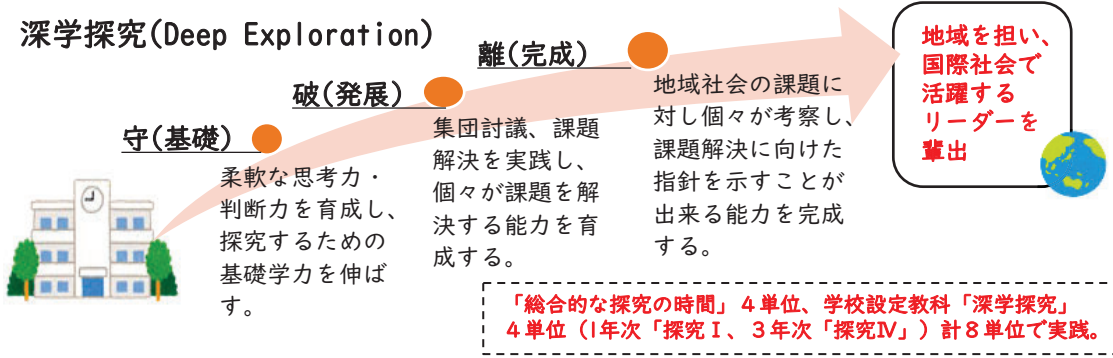
地域社会学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

（目的・目標） **地域社会に貢献する国際的知見を持ったリーダーの育成**

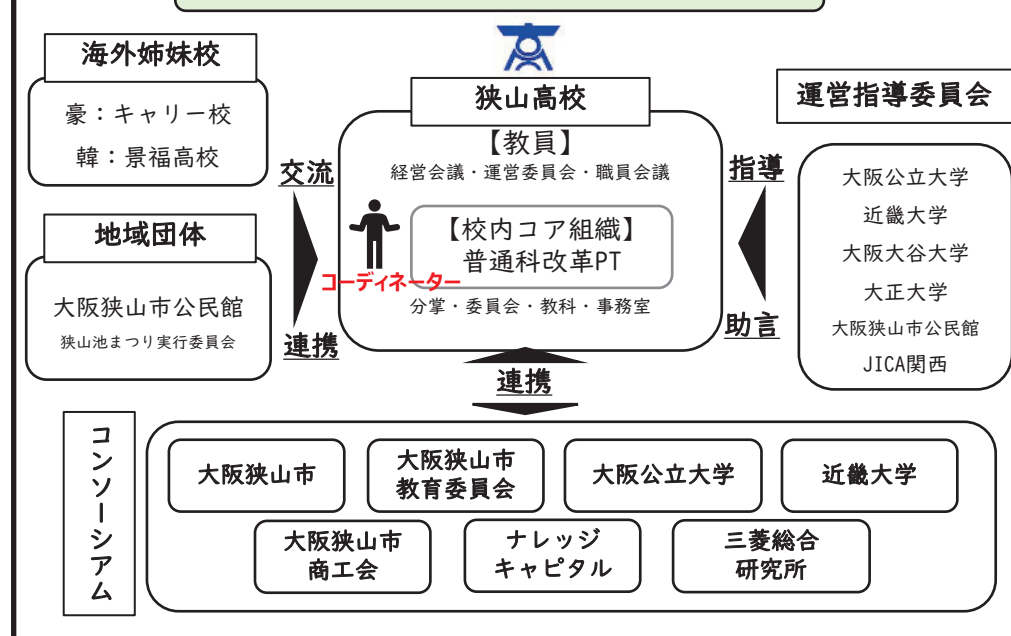
（特色・魅力ある教育の概要）

- ・「守破離」をモデルとした「自分ごと」の学びを深化・完成させる学習プログラムとして、学校設定教科『**深学探究**』を**実践**
- ・自己表現を高める**基礎講座**、**地域行政と連携した課題解決探究**、**大学等と連携した個別課題解決型探究を実施・展開**。地域で活躍するとともに、国際的知見を持ったリーダーを育成。

深学探究(Deep Exploration)



関係機関との連携・協働体制



R7年度の目標及び取組状況

① カリキュラム開発

育成をめざす資質・能力を段階的に図るルーブリックの開発

- ・普通科改革プロジェクトチームにおいて、1年次のカリキュラムについての指導計画を策定。
- ・生徒の資質・能力の伸長を図るルーブリック策定に向けた評価方法の検討及び学校全体で統一した指導体制の構築に係る定例会議を実施。

③ 広報活動

学校WEBサイトの活用や地元自治体と連携した広報活動の実施

- ・近隣の複数の中学校で進路実現に向けた説明会を開催。新学科における教育活動等について説明。
- ・学校ホームページに特設ページを設置、新学科のカリキュラムや指導内容に関する解説動画を作成し周知。

② コンソーシアムを構成する外部機関との連携協力体制の強化

大阪狭山市や大学等と連携した取組の実施

- ・市役所と連携した市の課題の解決策を提案する探究活動の実施 他
- ・大学から講師を招聘し、探究の指導力向上に係る教員研修を実施（全4回）



成果と課題

（成果）

- ・「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン」（R6策定）を基軸とした**文理探究科カリキュラムの策定及び評価ルーブリック（案）の作成**。
- ・新学科で求められる教育活動に関する**教員研修の実施（全4回）**。
- ・**新学科のカリキュラムの先行実施**による生徒のプレゼンテーション能力や課題発見能力の向上。
- ・学校HPを活用した**新学科に関する広報活動の実施**。

（課題）

- ・**地域自治体との円滑な連携システムの構築**。
- ・**ルーブリック及び評価方法の策定**。
- ・新学科設置に係る更なる**広報活動（SNSの活用及びWEBページの充実）**。
- ・**教員を対象とする探究学習の実践的研修**。

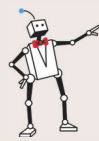
【伊丹市立伊丹高等学校】学際領域学科（令和7年度設置）

激動の社会変化に対応【未来とつながる】



グローバル化

共創



AI・ロボットの進化

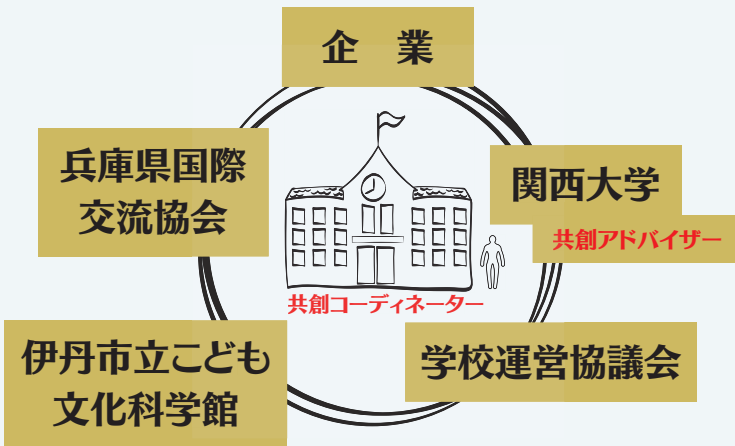
実用的英語力	ツールとして英語を使える能力
国際感覚	異文化を理解し、複眼的に考察できる能力
革新力	新たなアイデアを創出する能力(0→1の力)
伝達力	アイデアを適切に伝える能力(9→10の力)

世界や社会で関わる人々とつながり、
共に成長し、共に未来を創ることができる
グローバル人材を育成する

～グローバル共創科独自の探究学習～

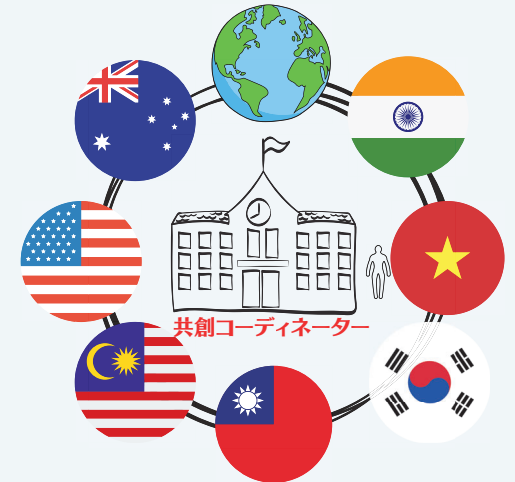


外部の専門家との連携【社会とつながる】



最高の動議付け、多様な人々とのワンオンワン
効果的なフィードバック、真正な発表の機会等

世界中の人々との交流【世界とつながる】



長期留学生、オンライン探究交流、
対面交流、京都探究フィールドワーク等

令和7年度の目標

- 学際的な探究学習の推進
 - 教員の伴走型指導力の組織的展開
 - 教科学習との往還
 - 普通科での実践
- 共創指導體制の整備
- コーディネーター（CN）との協働
- 探究プログラムの開発
- 探究の輪を広げる
 - 市内の小・中学校との連携
 - 新学科の学びの情報共有



令和7年度の実施状況

- 学際的な探究学習の実施
 - CNを通じて多様な外部機関との連携
 - 多数の国際交流の機会
 - 発表会・探究フォーラムの開催
- 新学科推進班の設置 **NEW**
- 普通科での課題設定型探究の開始 **NEW**
- 伊丹市と連携した探究プログラム開発 **NEW**
- 多数の校外の探究発表会に参加
- 中学校との「探究」を軸とした情報共有 **NEW**



令和7年度の成果と課題

- 『探究プロセス』の高度化
- 自走する学習者への変容
- 成果** CNによる外部連携機関との連携強化
- 多様な国際交流をシステム化
- 学校全体の「探究文化」の醸成
- 探究を軸として中学校との連携
- 新たな探究プログラムの始動（R8～）
- 課題** 新学科の伴走型指導の形式知化
- 中学校との連携強化



【兵庫県立尼崎高等学校】 地域科学探究科(種別:地域社会学科) (令和7年度設置)

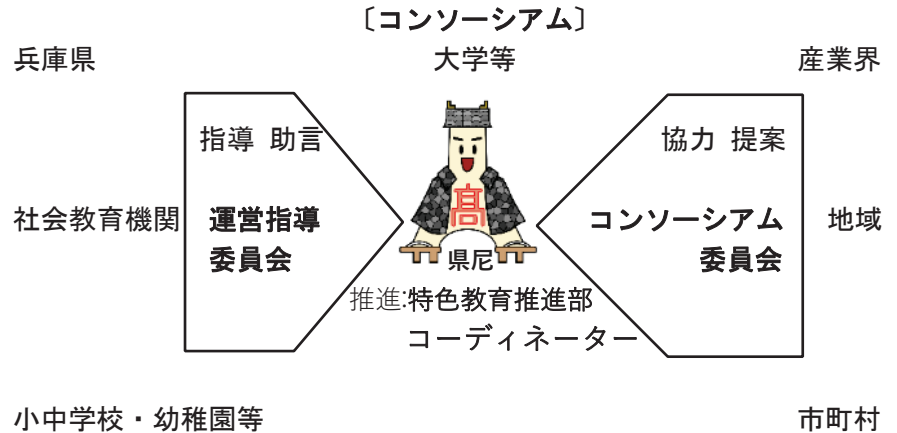
【学科設置の目的】

- Society5.0の時代に求められる生徒の育成
- 尼崎の都市特性を最大限に活かし、未来を共創する力を育む教育活動の充実
- 地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する探究活動への取組

【特色・魅力ある教育の概要】

- 改編前の「教育と絆コース」から継承する環境学習・地域貢献活動
- コンソーシアムが支える地域探究活動カリキュラム
- 探究活動を通じた他校との交流活動
- 「尼崎を知り尼崎と動く、尼崎を動かす、尼崎をつなぐ」をテーマに、コア科目「尼ゼミⅠ～Ⅲ」を通して尼崎市域をフィールドにした探究活動の実施

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



令和7年度の目標	取組状況	成果と課題
1 カリキュラム研究・開発	1 年間指導計画の作成と実践	1 授業担当者を中心とした担当者会議を設置し月1回以上は開催し、機動的に課題を検討する体制を構築できた。【成果】 評価方法とその検証が不十分である【課題】
2 外部人材を講師とした講義・研修会等の実施	2 「尼ゼミⅠ」では年間のべ11人(団体)の外部講師による授業実施	2 探究学習や尼崎について、専門的な知見を有する外部人材の活用は生徒の学びに大変有意義であった。【成果】 教員向けの研修会を年間3回計画していたが、開催日並びに講師選定において、学校行事等との調整が難しく計画通りの実施ができなかった。【課題】
3 コーディネーターの活用と役割の明確化	3 コンソーシアム委員会への出席と地域懇談会の開催	3 取組などの説明を丁寧に実施し、協働先との関係強化・拡大ができた。【成果】 学校全体の教育活動への参画の理解と周知【課題】
4 改編前の「教育と絆コース」から継承すべき活動の検証・精査	4 現行コースの保育・教育の実習体験活動を検証し継続実施の活動を選定	4 尼崎の森での環境学習」「尼崎市民まつり参加」「小学校授業実習」「子どもクラブ体験実習は継続実施【成果】
5 中学生・保護者・地域への広報活動の促進	5 年3回のオープンハイスクールで生徒による授業等の取組説明と教員による学科説明を実施	5 生徒による説明は学校の雰囲気分かりやすいと好評【成果】 中学校教員への学科説明が不十分である【課題】

【兵庫県立淡路三原高等学校】学際領域学科「文理探究科」(令和7年度設置)

文理探究科設置の目的

- ・学際的思考力育成 → 各学問分野への興味関心の深化
→ 社会の変動に対応できる探究心のある人材育成
- ・地域、企業、研究機関の人材と交流 →
①主体性 ②創造性 ③協調性 ④社会参画意識を有した人材育成

特色・魅力ある教育の概要

- ・探究活動+教科横断プログラム
- ・校外研修ツアーの充実
- ・実践的英語運用能力の育成
- ・ICT環境の整備とデータ活用技術の習得
- ・大学・企業と連携した実践的取り組み



多彩なINPUTを
地域を支えるOUTPUTに

関係機関との連携・協働体制の構築方法

南あわじ市連携協定
(地域人材)

うずしおコンソーシアム
(地域+国際人材)

地域の課題を知る
地域の強みを知る
地域で働く人から学ぶ

国内外の課題を知る
未知の世界と違和感から学ぶ
専門的知識、経験から視野を開く


運営指導委員会
(専門家からの助言)

コーディネーター
(教育と社会の懸け橋)

令和7年度の目標

- 探究「データサイエンス基礎」の実施と「読解Integral」の計画
- 総合的な探究の時間「Sagas ラボ」実施と「Sagasゼミ」の計画
- 生徒向け経年アンケートの実施
- 企業、研究機関との関係強化と新規開拓
- 探究活動への生成AI導入
- 探究に係る教員研修の充実
- 広報活動の充実

取組状況

- 大学教員による授業年3回以上。他教科知識との融合
- a)科目との連携で、生きたデータを分析
- 観点別評価に使用できる5件法22項目のアンケート
- d)  新規企業連携数-2
2年間の連携総数-26
- e) 研究機関での教員研修3名
個別最適化を図る活用実践中
- f) 校外発表会、他校視察、研究会への参加-7名
- g) オープンハイスクール3回
noteでの発信開始

成果

- 文理探究科1期生の意識調査
探究心や自主性に関する記述多数
- アントレプレナーシップ教育の実践開始-中小機構との連携プログラム
- 全国コンテストへの出場、入賞増加
(2年生:30名)
- 体験型オープンハイスクール(Sagas Day)の実施回数2回
- 夏の研修旅行実施
:東京/筑波、大阪、広島
-満足度 100%
冬の研修旅行実施
:西はりま天文台、東芝半導体工場
-文理融合的思考の育成
- 生徒の課題研究活動への意識向上
-主体性を問う項目で数値がUP

課題

- 定員割れによる影響
-基礎的学力、多様性に課題
- ビジネス的アプローチと課題
研究的アプローチの研究
- 特定の生徒への偏り
-探究的思考の得意不得意
- 中学校への内容周知の難しさ
-探究活動への理解不足
- より主体的な研修態度の育成
-事前研修の内容充実へ
-地理的デメリットによる受益者負担の増加
- 情報収集力、情報分析力に
大きな課題

【島根県立津和野高等学校】 その他の普通科（令和7年度設置 未来共創科）

～育てたい生徒像～

未来社会の創造に仲間と協働して主体的に挑戦しようとする人

5分野15個の育てたい資質能力

基礎力	課題発見力	課題解決力	社会情緒的能力	キャリア探究性
自他の心身の健康 知識・技能 情報活用能力	知的好奇心 共感力 思考判断力	創造力 協働性 多様性活用能力	表現力 対話力 発信力	自他理解 自己決定力 粘り強さ

教科学習

探究活動

特別活動

情報活用

今までの取り組みの深化

新たな取り組み

協働体制

【行政】

島根県教育委員会
島根県商工労働部産業振興課
津和野町教育委員会
津和野町つわの暮らし推進課
一般財団法人つわの学びみらい

ツコウ
(津和野高校の愛称)

【企業】

株式会社さとくらし
株式会社Nex-E
タイムカプセル株式会社
バルトソフトウェア株式会社
株式会社ADDRESS

令和7年度の取組

○教科学習

- ・教科横断的な授業に取り組み、公開授業等を実施。
→教員間での授業に対する議論の深まりや、教員の自主的な授業研究に発展する。
- ・企業の方による「情報I」の出前授業
→「情報デザイン」「プログラミング」「シミュレーション」「ネットワーク」「セキュリティ」「データ分析」の分野について学習した後、企業の方に学習内容と社会との繋がりについて授業をしていただいた。その結果、多くの生徒の興味関心が高まった。

○探究活動

- ・地域の中학생や大人の方を招き成果発表会を実施
→発表した生徒それぞれが、自分の探究の過程を聞き手に伝わるように工夫したプレゼンを実施。自分の「好き」を大切に探究やその発表内容が好評であった。

○情報活用

- ・課外講座の充実
→「デジタル講座」「プログラミング講座」に生徒が主体的に参加し、企業の方の支援を受けながら作品を完成させる。

次年度に向けた課題

学校設定科目の円滑な実施

企業の方と連携して行う、2年生の「情報活用（3単位）」「データサイエンス実践（1単位）」が実施される。各コマ毎の授業案は今年度中に完成することができたが、その運用や授業実施時に生じた課題点について検討し、持続可能な形にしていく。

令和9年度以降への引き継ぎ

担当者等の変更があっても、現在の連携の形が維持できるように、連携体制作りを強化する。